

がん対策の推進に関する 意見交換会 意見陳述

2006年12月13日(水) 9時~12時

虎ノ門パストラル 葵の間

特定非営利活動法人 グループ・ネクサス

地方での悪性リンパ腫に対する治療の実例 (B細胞性非ホジキンリンパ腫へのR-CHOP療法)

- 血液内科医がいないため、標準レジユメンの半分の投与量による化学療法を耳鼻科医が施行。



治療抵抗性となり、より強力な化学療法が必要。
治療期間と医療費負担が増加。

- R(リツキシマブ)の保険適応で認められた使用が、R-CHOPでの使用法と一致していない。



R-CHOPは内外専門家によって標準治療として認められているため、保険審査で償還は認められる。

(海外標準治療と国内保険適応との乖離)

標準治療ガイドラインの周知

- 悪性リンパ腫治療に対するガイドラインとして「抗がん剤適正使用のガイドライン」(2005年)
(日本血液学会・日本癌治療学会)
「造血細胞移植適応のガイドライン」(2002年)
(日本造血細胞移植学会)
などがあるが、各医療機関での治療選択や、保険審査の基準として充分活用されていない。
- 学会は国から補助や有利な施策を受けていないため、適時のアップデートも難しい。
- 米国ではNCCN(National Comprehensive Cancer Network)が、治療の標準化と均てん化の役割を担っている

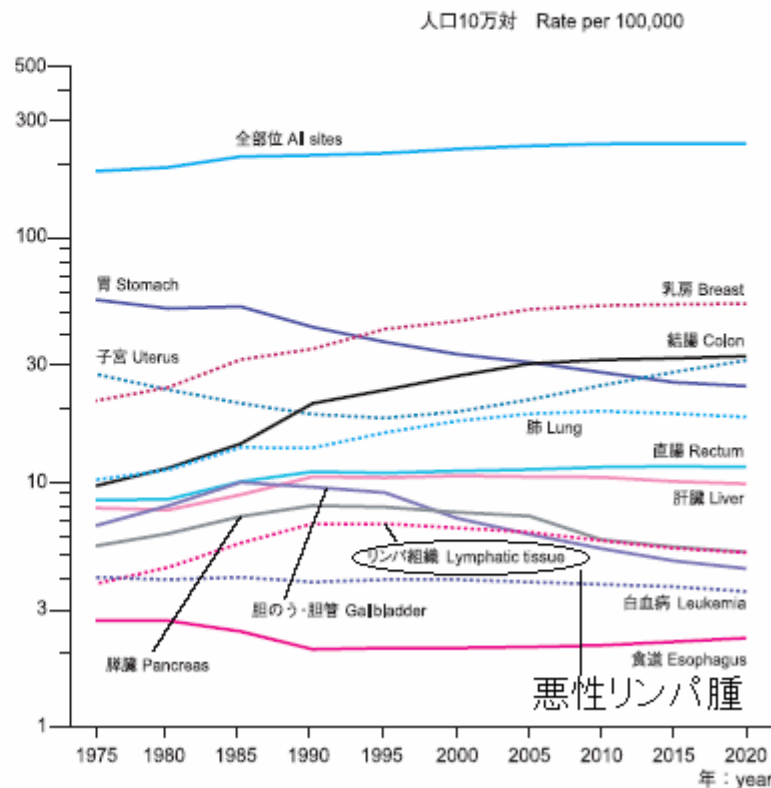
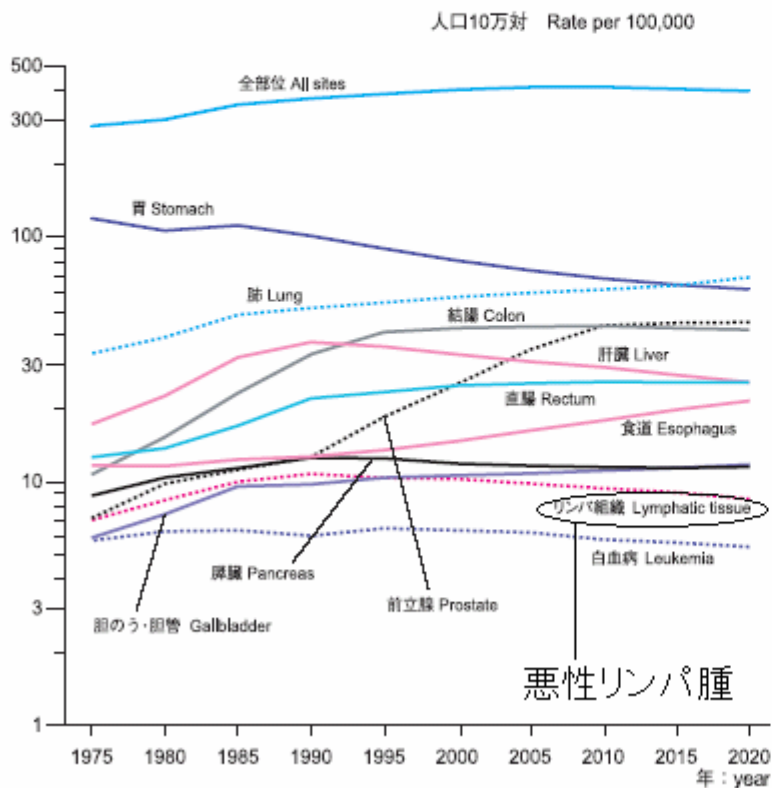
ガイドラインを保険審査の基準としても活用し、治療の標準化と均てん化を進める必要がある。

1) 2020年までの性別・部位別年齢調整罹患率の予測

Prediction of age-adjusted incidence rates by sex and site through 2020, Japan

男 Males

女 Females



- 悪性リンパ腫の年齢調整罹患率は、ほぼ横ばいで推移すると予想されている(国立がんセンター「がんの統計'05」より)。
- 現状では、血液内科医の人員は充分でなく、地方では血液内科医の治療を受けられない患者さんが多く存在する。

血液内科医の不足と腫瘍内科医

診断や治療の高度化
厳しい労働環境



血液内科医の慢性的不足
5年以上入局がない医局の存在



腫瘍内科医に対する
一般の期待の高まり



腫瘍内科医の人員と
制度は発展途上



造血器腫瘍の治療は化学療法や骨髄移植が主であり、薬物療法に長けた血液内科医が、固形がんの化学療法も求められる



血液内科医の不足に拍車・血液疾患の患者にしわ寄せ



現状と将来予測に基づく医師の適正配置のための施策

外来化学療法が増加に伴う 患者さんへのケア

- 外来化学療法の長所
 - ・日常生活や社会生活の活動性の維持
 - ・家族や友人との交わりで得られる精神的な安心感
- 外来化学療法の短所
 - ・通院の負担
 - ・副作用への対処
 - ・生活上の身体的・精神的・経済的な不安

(例) 骨髄抑制に伴い、白血球を増やすG-CSFを投与するため、頻繁に通院(感染症リスク)



海外では在宅投与が認められている

腫瘍内科医の不足



血液内科医などが化学療法

入院医療のDPC導入



外来化学療法へのシフト

血液内科などの少数の医師が、各領域の治療プロトコールの審査や投与を行い、限られた外来看護師が患者の処置を行う

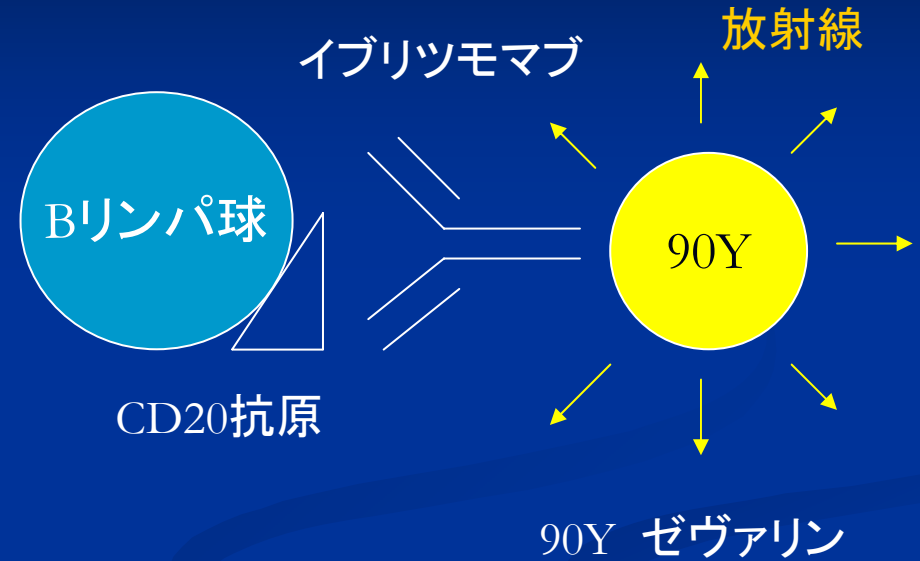
外来化学療法を受ける患者さんに対するケアの不足
医療者に満足な相談も出来ず、患者同士のつながりも希薄
→大きな不安の中、孤独な闘病生活を送る患者さんが増加

情報・相談支援センター、ソーシャルワーカーの拡充
医療機関と患者団体との連携

放射性免疫療法薬

抗体療法薬
細胞表面に発現している
抗原を標的とする

放射性物質



抗体を発現している腫瘍細胞のみならず、
その周辺の腫瘍細胞にも放射線が作用する

ゼヴァリン (Zevalin)

米・英・仏・独・韓国など、世界37カ国で承認済み。
再発・難治性の濾胞性B細胞性リンパ腫を対象に、
国内承認申請中(オーファンドラッグ指定)

核薬学(Nuclear Pharmacy)専門薬剤師

- 放射性同位元素(RI)を標識した抗体は、薬剤調整後は長期間安定ではなく、病院内での調整が必要
- 国内では、血液内科医、核医学専門医、放射線技師などの協力が必要となり、負担がきわめて大きい
- 米国薬剤師会が設立した薬学専門職委員会(Board of Pharmaceutical Specialties)による認定薬剤師制度
→腫瘍薬学(Oncology Pharmacy)などの他に、
核薬学(Nuclear Pharmacy)などを専門とする薬剤師



国内における各種の専門薬剤師制度の拡充が、
医療者の負担減と、適切・安全な薬物療法につながる

ご清聴有難うございました

特定非営利活動法人 グループ・ネクサス